

学生の声を
届けます

『テンペスト』を読んで 人間文化学部 4年 古徳風樹

みなさんは、シェイクスピアをご存知でしょうか？授業などで話を聞いたことはあるけれど、作品は読んだことはないという方も多いと思います。今日はそんなあなたに、この一冊を紹介します。

それは「テンペスト」です。この本は1611年ごろに書きあがったとされているものです。シェイクスピアの本は「ハムレット」や「リア王」などの「四大悲劇」や「ロミオとジュリエット」に代表されるような入り組んだ人間関係、疑心暗鬼の気持ちなどの人間の暗い部分を浮き彫りにした悲劇作品が有名です。しかし、テンペストはシェイクスピアの中では珍しい、ファンタジーの要素があり、尚且つ、幸せな結末が待っているというものです。シェイクスピアは気になるけれど、暗い作品を読むのは苦手、小難しい作品は苦手という人にも読みやすい一冊になっています。

勿論、図書館にはこの他にもシェイクスピアの作品はたくさんありますし、同じ時代を生きた人々の作品もありますので、あなたにあった一冊をぜひ探してみてください。



頑張っていること
人間文化学部 2年 若竹彩香

私は今、中高国語の教員免許と、図書館司書・司書教諭の3つの資格取得を目指しています。様々な先生方に、3つは難しいとか、目標は絞った方がいいとか言われました。もちろん、難しいとはわかっていますが、しっかり勉強していれば出来ないことではないと思います。

私は無理と言われると燃え上がるタイプなので、1年生の時から全ての資格に関する授業に出ています。たくさんの授業やレポートをこなすのはとても大変ですが、テストの後にはその分の達成感が得られます。

2年生になり、大学生活や一人暮らしにも慣れ、甘えやだれが少し出てきました。しかし、学費や一人暮らしのためのお金を払ってくれた両親のためにも、学校生活も楽しみつつしっかり気を引き締めて、資格取得のために努力していきたいと思います。

皆さんも周囲に無理だと言われてくじけそうになっても、諦めずに目標に向かってチャレンジしてほしいです。



『世界から猫が消えたなら』を読んで 人間文化学部 4年 柿沼朱里

『世界から猫が消えたなら』は、映画プロデューサーの川村元気さんが書かれた小説です。この作品は佐藤健さん、宮崎あおいさんの主演で映画化されました。

ある日、余命わずかであることを宣告された主人公。悪魔に「この世界から何かを消す。その代わりに一日だけ命を得る」と告げられ、大切なものをひとつずつ消していくというお話です。作詞家の秋元康さんが「川村元気の小説は、音楽だ。」と評している通り、一人称で語られる物語は読みやすく芸術性が感じられます。

私には物心ついたころから猫がそばにいました。ひろってきたり、いつのまにか住み着いていたり。一匹一匹の猫たちに思い出があり、愛情があります。この世界から猫がいなくなったら、おそらく私はいままで通りの私ではなくなってしまう。猫だけではなく、ものでも人でも、それは同じだと思いました。

図書館にはさまざまな本があります。自分を見つめなおすことができる一冊を、ぜひ図書館に来て探してみてください。